



2019/2/13 WED

様々な古典の世界に触れてみませんか

シリーズ『古典遊学』

作家に聞いてみよう

～ 古典の名作「摂州合邦辻」

講 師：松井今朝子（作家）

ゲ ス ト：木ノ下歌舞伎主宰 木ノ下裕一

歌舞伎に造詣が深く、近世を舞台とした時代小説の名手として数多くの作品を発表している松井今朝子さんをお招きし、歌舞伎見物の極意を伝授します。2月にPLAT主ホールで上演される木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』公演を前に、この古典浄瑠璃の解説、現代歌舞伎の楽しみ方をお話します。



松井今朝子[まつい・けさこ]／作家

1953年9月28日、京都祇園に生まれる。南座にほど近い環境で育ち、子供のころより歌舞伎の魅力にとりつかれる。早稲田大学大学院文学研究科演劇学修士課程修了後、松竹株式会社に入社、歌舞伎の企画・制作に携わる。松竹を退職後フリーとなり、故・武智鉄二に師事して、歌舞伎の脚色・演出・評論などを手がけるようになる。

一方で、『マンガ歌舞伎入門』『ぴあ歌舞伎ワンダーランド』、CD-ROM『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』など、歌舞伎啓蒙媒体の監修に積極的に取り組む。97年、『東洲しゃらくさし』で小説家としてデビュー。同年に、『仲蔵狂乱』で第8回時代小説大賞を受賞。この作品は、2000年に市川團十郎、新之助の出演でTV化された。その後、幕末の青春を描いた『幕末あどれさん』、大阪を舞台にした『奴の小万と呼ばれた女』、初の捕物帳『一の富並木拍子郎種取帳』を発表、2007年『吉原手引草』で第137回直木賞受賞、現在に至る。

日程 = 2019年2月13日[水] 18:30～

募集人数 = 50名(申込順)

参加費 = 500円

会場 = 穂の国とよはし芸術劇場PLAT
研修室(大)

木ノ下歌舞伎

木ノ下歌舞伎公演『心中天の島』より

歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に2006年より活動を展開している。